



Title	行者の歌
Author(s)	眞旅
Citation	校友会報, 1
Issue Date	1966
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77649">http://hdl.handle.net/2115/77649</a>
Type	column
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	A018_02_03all_Part52.pdf



[Instructions for use](#)

余は管見時代より  
 この頃まで真旅  
 と云ふペンネームを  
 最も多く用いた  
 石。人々の実名と  
 現りては江上漫  
 と云ふペンネームも  
 あり厚く用いた  
 後には水を略して  
 甚き字と云ふ号  
 を用いた。

行者の歌

改定本 旅 眞

眞 旅

あわれ流轉の旅に出て 行方を識らぬ行者哉

行方定めぬ旅なれど 心 愕く 事 多く

哀歌の篇を吟じては 酔夢悲しき行者哉

身に容け餘るさいなみと 身に容け餘る情とに

疲れはてたるめぐみにて 神識りて後物云はず

行く手定めぬ旅なれば  
假り寝の宿のかなしさは

どうせ今宵も假の宿  
欄にのこせし涙あり

工場の煙西に行く  
刃を愛で、聲立てず

人を殺せし痴れ者の  
あわれ我呼ぶ煙あり

斯く謂ふ我は王者なり

されど此世の國にはあらず